

三鷹市立東台小学校 令和5年度【特別な教科 道徳】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物と自分を重ね合わせて考えたり、自己の生き方についての考えを広げる指導が不十分である。 話し合いの場や、友達の見聞や考えを聞いて共感したり異なる考えを伝えたりする場面が少ない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの自分の経験やそのときの考え方を引き出し、自分だったらどうするかという視点をもたせ、学んだことを生かしてこれからどうしていきたいかという願いをもたせられるよう教材の内容だけでなく、実生活に振り替える時間を設ける。 他者の発言を聞いた後の学習活動をあらかじめ設定するなど、「聞く」ことの動機付けを図る。 自己の考えを深めるために、考える時間を取り、ペアワークを行う時間を確保する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文を読んで、登場人物の気持ちを考えることができる。 道徳的価値の理解に基づいて、他者と生活するうえで必要なきまりを守る大切さがある。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気持ちを言葉や文字で表現できない児童もいる。 道徳的価値として捉えたことや、感じ取ったことを生活や行動に生かすことのできる児童は、まだ少ない。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手理解を深めるために、登場人物の気持ちを考えるに至るまでの声掛けに工夫が必要である。 道徳的時間だけでなく、日常の生活の中でも生かしていくために、生活の中で道徳的価値を想起させる必要がある。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えをもつ児童に、自分の考えを発表させて多角的に考えることができるような場を設定する。 道徳的価値として捉えたことや、感じ取ったことを自分の学校生活や生活に生かせるよう考える時間を確保すること、伝え合う場を設定する。
第2学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的な価値項目が異なる教材でも、授業展開や言語化した児童の振り返りが似かよってしまっている。 友人の考えをもとにして自身の考えを見つめなおしたり、考えを交差させたりすることで、学びを深めることができるとする工夫が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の内容を教材の中だけで考えるのではなく、自分自身に置き換えて気持ちを考えること、どのように生活や行動につながっていくかまで考えることなどができるよう指導する。 友達の考えを聞き、考えが変わったり見方が変化したりした児童が発表する場面を作る。 自分の考えを深めるために、友達の考えを聞く時間を大切に、議論する時間を確保する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文を読んで登場人物の気持ちを考えることができる。 教材の道徳的価値を理解し、自分の考えをもつことができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつことはできるが、相手に伝えたり話し合ったりすることが苦手な児童がいる。 自分の一つの考えにとどまってしまう、多面的・多角的に考えることが難しい児童がいる。 これからの実生活において、具体的な自分の行動や態度が想像しにくい児童がいる。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見が伝えられない児童への対応 ICTや教材に沿った資料の活用 これからの実生活における具体的な場面の想起 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の物語の読み取りによる人物の心情の読み取りが中心とならないように留意した指導が必要である。 児童が他者の意見だけでなく、学習前の自己の考え方も比較して考え、自己の心の変化を感じることができるよう指導が必要である。 授業前と授業後の自己考えを視覚化させ、児童自身が変化したことや感じたことなどができるよう指導の仕方を考える。 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えに気付くことができるよう指導する。
第3学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の「本音」を引き出すことが不十分である。 さまざまな意見や立場が出るような発問や活動が必要である。 根拠をもって道徳的価値を深めたり、普段の生活の中における具体的な実践をイメージしたりできるような指導の工夫が必要。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 良い・悪いにとらわれず、児童の体験や素直な気持ちをアウトプットしやすいような言葉かけや場の設定をつくる。 自分の意見を基にどんな行動をすれば、どんなことが起きるか、または他者にどんな気持ちや態度をさせるかを考え、道徳的価値に近づけられるような発問や活動する時間を設定する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が道徳的な意義を理解し学習に取り組んでいる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の人物の心情と自己の心情を重ね、自分だったらどうするかを考えることが苦手な児童がいる。 学びを基に自分の経験を振り返る際、自身が失敗した経験をもつ思い出すことのできる児童もおり、メタ認知する力の弱さがある。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の物語の読み取りのように人物の心情の読み取りが中心とならないように留意した指導が必要である。 児童が他者の意見だけでなく、学習前の自己の考え方も比較して考え、自己の心の変化を感じることができるよう指導が必要である。 授業前と授業後の自己考えを視覚化させ、児童自身が変化したことや感じたことなどができるよう指導の仕方を考える。 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えに気付くことができるよう指導する。
第4学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を実生活での事象で具体的にイメージして考えさせることが必要。 友達と意見を交差させ、考えを深められるような工夫が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考えるだけでなく、自分だったらどうするか、学んだことを生かしてこれからどのような行動をとるかまで深く考えられるよう指導する。 友達と意見を交差させる場面を設定し、様々な角度から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 副読本から主人公の気持ちや様子を考えることはできる。また、話し合いでも積極的に発言する姿が見られる。 発問が曖昧であると答えられない児童が見られる。 自身の考えを適切に表現できる子がいる一方、考えや思いはもっているが、なかなか文章に表現できない児童も見られる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的に実生活と繋げて考えられる児童が少なく、イメージだけでは限界がある。想像力を豊かにする工夫が必要である。 自身の意見が絶対的に正しいと考え、主張する児童が見られる。話し合いの中で、意見の差があまり見られなかった。 何を聞かれているのか理解できず、自分の考えをうまく表現できない児童が見られる。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 副読本のみで進めがちである。黒板と教員の話し以外でも引き付ける工夫が必要。 話し合いの際、好き勝手に話してしまう児童が見られるので、1人1人の再確認が必要である。 児童が自分事と捉えられるよう指導の工夫が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージしやすいようにICT機器を上手に活用する。動画などを活用することも有効だと考える。 話し合いの場を設けて、柔軟な考えが出るようにする。 ロープレイングを取り入れるなど、感情移入しやすい授業展開を考える。
第5学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の立場を明らかにすることで、葛藤する場面を自分事として考えられるよう指導を工夫する必要がある。 自己を見つめ直すための機会や、考えをまとめる時間を十分に取れない。 自分の意見をしっかりと述べているように、考えをまとめる時間を必ず確保する。自分の意見が書けない児童に積極的に学習を通して感じたこと、考えたことを振り返ることができるようになる。 登場人物の感情を考えさせるだけでなく、自分の経験や友達の経験をもとにして様々な角度から考えられるよう学習展開を工夫する。 	<p>(学習の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の教材を他人事としてではなく、自分事として捉えられる児童が増えた。 終末では、授業を通して、また友達の意見を聞いて感じたことを書くことのできる児童が多い。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分事として捉えられるのは、授業内での一定の時間に過ぎないため、日々の生活に生かせるようには必要がある。 一回の道徳の授業が単発で終わってしまうので、他教科との関わりをもたせ、学びを深める必要がある。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の物語の読み取りのように人物の心情の読み取りが中心とならないように留意した指導が必要である。 児童が葛藤する姿を受け止め、その葛藤を十分に表出させる時間を設けていく時間が不十分である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物事を重視するのではなく、教材を通して児童自身に付けさせたいことを重視して授業を展開していく。 葛藤する姿を肯定・共感しながら、終末に向けて考えを深められるよう学習を工夫しながら学習を展開していく。 学級での話し合いを通して、自分の心がどのように揺れ動いたか、振り返りをする活動をもつて、価値を捉える。
第6学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童自身が、授業で学んだことを通じて、行動が変化したという実感をもてる場面が少ない。 望ましい選択肢に焦点を当てすぎたり、葛藤したうえで行動やその心情に寄り添うアプローチをすることで、多面的・多角的な理解につながっていない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を通して、望ましい行動選択をすることのみにとらわれず、様々な葛藤が描かれている場面で「なぜ葛藤しているのか」という背景を多角的に捉えることで、実生活において多面的に友達の行動を受け止める心情を養っていく。 資料だけでなく、友達の経験や思い、教師や地域の方と話し合い、先哲の考え方を手掛かりにしたりと、自己の生き方を深めるための対話を充実させる。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に関心をもち、すすんで読み進める児童が多い。 終末では、本単元で学んだ価値を自分たちの生活でどのように生かしていけるかすすんで考える姿が見られる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心発問に対する考えでは、望ましい考えを述べない児童が多く、葛藤した思いが表出されるような時間になっていない。 多様な考えを受け止める土壌は耕されてきたが、声や態度で示されていないため、安心して多様な意見を出す環境を整えていく必要がある。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が葛藤する姿を受け止め、その葛藤を十分に表出させる時間を設けていく時間が不十分である。 状況が葛藤で望ましい行動を推奨するような言葉かけが多く、葛藤する児童の実態に寄り添う言葉かけが不十分である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の中で児童が「どこで葛藤するのか」を見極め、望ましい行動を選択したいが、現実には思いが葛藤することもあると、教師自身が全体の前で伝え、多様な意見が出てよい環境を整える。 資料の中でどこを考えたか、児童自身に問いをもたせ、お互いが素直な気持ちを表現できる学習展開を工夫する。 学級での話し合いを通して、自分の心がどのように揺れ動いたか、振り返りをする活動をもつて、価値を捉える。
くすの木 学級	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の流れや場面設定を理解させつつ登場人物の行動を焦点化し、おもしろい道徳的価値にせまる授業展開や指導の工夫が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で学んだこと、体験したことなどを通じて、道徳的価値を自分自身との関わりで捉えられるよう工夫する。 道徳的価値への感じ方や考え方はたくさんあるという前提のもと、自らを振り返ったり物事を広い視野で考えたりできるような授業展開を行う。 道徳的価値に関わる場面について動作化や役割演技などを取り入れ、自分の考えを述べたり友達の発言を集中して聞いたりする指導をする。 児童の実態に応じて、道徳的価値の意義及びその価値の大切さを理解させる時間を確保する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が理解できる物語を資料に選び、文字だけではなく、絵本や映像などを活用することによって登場人物の気持ちを考えることができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 議論を想像することが難しい。 自分の考えを言語化することが難しい。 意見交換を行いつつ学習を進めることで道徳的価値について考えることはできるが、実生活に生かすことができていない。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面設定や登場人物について十分に理解させる時間が不十分である。 友達の意見を聞き、自分の意見と比較して考え、深められるような工夫が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの自分の経験をもとに考えることを通じて、道徳的価値を自分自身との関わりで捉えられるよう工夫する。 登場人物の気持ちを場面設定をもとに想像して考えたり、いくつかの選択肢の中から選び表現したり、友達の発言を集中して聞いたりする指導をする。